

27年度の行政事業レビューの実施に向けた改善の方向性について（案）
（概要版）

平成27年度の「行政事業レビュー」の実施にあたっては、行政改革推進会議の有識者からの意見・指摘、「秋のレビュー」等に参加した評価者等のアンケート調査結果や各般の取組の中で明らかになった課題などを踏まえ、以下のような改善を図ることとしてはどうか。

（注）本資料は、資料1-2（「27年度の行政事業レビューの実施に向けた改善の方向性」）を便宜のため簡略化したもの

1. レビューシートの記載・公表の充実

（1）成果目標等

○成果目標は事業の効果検証に極めて重要であることから、相応しい成果目標をできる限り定量的に示すよう、各府省に対して改めて周知・徹底。

⇒必要に応じ、行政改革推進会議への書面説明を求める等、各府省への改善の働きかけを強化。

○定量的な成果目標の設定が困難な場合には、各府省に以下の取組を求める。

- ・ 定量的な成果目標の設定が困難な理由や定性的な成果目標の明記。
- ・ 事業の妥当性を検証するための代替的な指標の設定（例：事業の効率性やコスト削減額）と、これに基づく定量的な検証。

（2）事業所管部局による自己点検項目

○事業所管部局による自己点検の実効性を高めるため、重要と考えられるが従来点検が求められていなかった項目（例：「成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか」など）を必要に応じ追加。

（3）レビューシートのデータベース化

○レビューシートのデータベースにつき、レビューシート最終公表後、速やかに公表。また、成果目標等をデータベースの対象に追加。

○レビューシートの「タグ」として、現在の18の主要施策に加え、地方創生、女性活躍等を追加。また、公共事業等の予算の主要経費も追加。

2. 各府省が実施する公開プロセスの改善

（1）対象事業の選定について

○対象事業の選定にあたっては、外部有識者の知見が活かせるよう、幅広い候補事業を外部有識者会合に示し、外部有識者の理解を得て絞り込むこととする。

○論点が専門的・技術的に過ぎ国民の関心を惹起することが期待し難い事業等（例：既に政府内において目標が設定されているシステムの運用経費の効率化など）は対象としないよう徹底。また、予算規模が少額の事業に偏

ることのないよう、各府省にバランスに配慮した選定を要請。

(2) とりまとめの方法について

- 評価結果の選択肢につき、外部有識者によって受け止め方が異なることのないよう、定義を修正・明確化。外部有識者会合の場などを活用し、外部有識者間で事前に認識を共有。
- 他の事業の徹底した見直しを通じて財源を捻出することを前提に、「伸ばすべきものは伸ばす」という結論も可とする。

(3) 公開プロセスの公開性について

- 原則、インターネット生中継で行うこととするとともに、傍聴も可能とするよう督励。特に、生中継を行わない府省は、必ず何らかの形で同時性を確保した公開を実施することとする。

3. 「秋のレビュー」(行政改革推進会議による点検)の改善

(1) 「秋のレビュー」の位置づけ

- 「秋のレビュー」は、その都度行政改革推進会議における決定を基に実施してきたが、行政事業レビューのサイクルの中で有効に機能していること、早い段階から準備に着手できた方がより深みのある議論が行えるとともに、広報も積極的に行えることから、定例化する。

(2) 「秋のレビュー」の公開方法

- より国民の関心を高める観点から、インターネット中継に加え、例えば学生に傍聴させる等、公開方法の充実について検討。また、視聴者との双方向性を向上させる。
- あわせて、「秋のレビュー」の取組について、その趣旨や対象事業の論点を事前にわかりやすく提示する等、効果的な広報の在り方について検討。

(3) 「秋のレビュー」の対象事業

- 昨年同様、重要施策等の中から府省横断的に複数の事業を取り上げ、個々の事業の必要性、有効性や効率性、重複の有無等を議論する取組を行う。

4. 基金の点検の改善

- 昨年 11 月 28 日の行政改革推進会議のとりまとめにおいて、具体的な改善方策が示されており、これに沿って対応。
- 官民ファンド等の出資の状況について、基金シートとは別途の様式による情報公開を行う。
- 「基金シート」の作成・公表の対象となる基金等の定義・解釈を明確化。
- 地方公共団体に造成された基金につき、所管する各府省における情報公開の内容を充実・強化し、各府省に一層の説明責任を求める。